

## 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

実施日：2019年5月25日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善項目、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			一日の利用人数を8名まで（制度は10名）とし、活動スペース、学習スペース、静養スペースを確保している。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			常時4名以上のスタッフを配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			車イスユーザー（3名）が通所できている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○		毎日30分程度の振り返りと、毎月全スタッフ研修を行っているが十分とは言えない。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケートやWebレポートシステムへのコメント書き込みでご意向を把握し、スタッフと共有している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			HP、Webレポートシステムへ掲載している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			法人監査及び、社員総会にて業務内容に対する外部評価を行い、事業計画に反映させている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			機会は確保している。今後は質を向上させなくてはならない。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			短期から長期、生活面から社会性まで多角度に課題を集約し、段階的に目標を設定している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		標準のアセスメントツールを用いる場合もあるが、年齢設定や自立度に合ったツールを用いている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			各々担当プログラムに対し責任を持って取り組んでいる。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			毎月新たなプログラム立案を行い、子どもの意見も取り入れている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			放課後はルーティーンワーク、休日はイベント体験、長期休暇は両方の要素を含めたプログラムを構築している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			中高生だけの活動故に、友だち、学校、学習、社会人スキル等、多岐にわたるニーズがあり、個別と集団共に必要性を感じている。適宜実施している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		必要性は感じているが、送迎などで行えないことがあり、オンライン上での指示、確認のみの場合がある。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			毎日必ず行っている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		記録は文章と画像で相当量を残しており、支援の検証改善につなげている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			メールや電話で保護者とコミュニケーションを取り、相談支援専門員と情報共有を行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			既存のものを基本にして、自立度の高い中高生に合わせて行っている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			最もふさわしい者が必ず参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか		○		各学校の年間行事など、情報取得が十分とは言えないが、子どもたちが口頭で知らせてくれるためトラブルは殆どない。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善項目、工夫している点など
関係機関や保護者との連携	㉓	医療的ケアが必要な子どもを受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	前例がないため連絡体制を取っていない。
	㉔	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		中高生対象のため、就学前の関係機関とは接触なし。
	㉕	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			引き継ぎケース会議などに参画し、必ず情報提供を行っている。
	㉖	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			奈良県発達障害支援センター「でいあー」の講演会、学習会に参加。児童発達支援センター各所と連携を取り、情報共有に努めている。
	㉗	放課後等児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			地域のイベントにボランティアとして参加し、交流を行っている。
	㉘	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか		○		対象となる児童のケース会議に参加はするが、協議会会議全てに参加はしていない。
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			通所ごとに画像付きレポートを発信し保護者よりコメントをいただくWebレポートシステムで最新の状況を共有し、迅速な状況変化に対応している。
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	質問や要望を気軽に発信して頂けるよう普段からシステムの構築と柔らかいコミュニケーションを心がけているが、ペアレント・トレーニング支援にはつながっていない。
保護者への説明責任等	㉛	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			必ず契約時に説明を行っている。
	㉜	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			電話やメール、突然の訪問などに対応。極力時間や空間を提供できるように努めている。
	㉝	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		特定の情報共有会(就労について先輩に質問会、奈良県立高等養護学校の説明会)は定期に催すが、保護者会は未開催。
	㉞	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			相談支援専門員を中心に、関わっている各福祉事業所担当者で連携して対応している。
	㉟	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月活動報告や行事予定を掲載した会報を発行(tunaレター)。保護者に向けたインフォメーションも載せている。
	㊱	個人情報に十分注意しているか	○			ファイルの管理や報告システムのパスワードなど、細心の注意をはらっているが、完璧はないと認識して取り扱っている。
	㊲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			常に通所している本人と対話をして現状を把握。定期的に面談を行っている。
	㊳	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			事業所主催のボランティア活動やイベントには地域の住民が参加して下さっている。
非常時等の対応	㊴	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		スタッフマニュアルに掲載。周知している。
	㊵	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			防災についての知識、実践力を向上させるプログラム、イベントを実施している。
	㊶	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			スタッフ研修の際、間違った関わり方(自己満足)に因り、子どもの経験が奪われることは虐待に相当すると示している。
	㊷	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			○	想定を超える自傷や多害行為の場合、やむを得ず身体拘束を行う可能性は有るが、組織の決定、事前説明、計画書への記載等一切を行っていない。

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善項目、工夫している点など
④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	本人と保護者からの情報を基に対応している。
④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ひとりひとりの事例を個別の記録に残し、配慮事項として共有している。